

三回目のメシア的奇跡と十二弟子の派遣

□これまでのハイライトからのつながり

二回目のメシア的奇跡と議会調査の判定

1回目のメシア的奇跡により
議会調査が開始した。

- (1) 二回目のメシア的奇跡：口をきけなくする悪霊をイエスが追い出した
- (2) 議会調査の判定：「この人が悪霊どもを追い出しているのは、ただ悪霊どものかしらベルゼブルによることだ。」 = 【イエスはメシアではない】という判定
- (3) 聖霊を冒瀆する罪：イエスが聖霊の力によってメシアとしてのわざを行っているのを見ていながら、それを悪霊のかしらの力によっていると拒否するのは聖霊を冒瀆すること
- (4) イエスの宣教活動における変化：指導者層による拒否を受けてから3つの変化
 - ① 奇跡の目的と仕方：【メシアとしての権威を示すために。公然と、受ける側の信仰を問わず】 → 《弟子たちの訓練のため。公衆の面前では行わず、受ける側の信仰を確認してから。公然と行う奇跡は「ヨナのしるし」のみ》
 - ② 教え方：明確な教えから、たとえ話による教えへ。解説は弟子たちにのみ。
 - ③ 神の国のプログラム：「メシアの王国」は将来の世代に延期され、「奥義としての神の国」の時代に入った。

神の国のたとえ話

メシア拒否を受けてすぐ、その当日に語られた一連の9つのたとえ話

「奥義としての神の国」の時代的特徴を弟子たちは教えられて、それに対する応答

イエス：「あなたがたは、これらのことがみな分かりましたか。」

弟子たち：彼らは「はい」と言った。(マタイ 13:51)

三回目のメシア的奇跡と十二弟子の派遣

理解はまだ不十分だが、
彼らが理解した範囲で

三回目のメシア的奇跡：指導者層による拒否の姿勢を再確認

十二弟子の派遣：指導者層による拒否を受けて神の国のプログラムが変わったことをこれまで宣教した各地の信者たちに知らせるため

□アウトライン

- I. **派遣前の弟子訓練**：悪霊に対して、病と死に対して、盲目に対して
- II. **三回目のメシア的奇跡**：イエスを拒否する指導者層の姿勢を再確認
- III. **十二弟子の派遣**：指導者層による拒否を受けて、神の国のプログラムが変わったことを各地に伝達

行って、「天の御国が近づいた」と宣べ伝えなさい。病人を癒やし、死人を生き返らせ、悪霊どもを追い出さなさい。あなたがたはただで受けたのですから、ただで与えなさい。（マタイ10：7～8）

I. 派遣前の弟子訓練

一連のたとえ話を終えると、その日も夕方になった。イエスは弟子たちに、舟に乗り、ガリラヤ湖の向こう岸に渡るように命じた。そこには、悪霊につかれて狂暴になっている人がいた。悪霊に対するイエスの力を示すとともに、悪霊に対処する方法を弟子たちに実地に見せて訓練するためであった。

弟子訓練は舟の上で早速始まった。湖上で激しい突風が起こって舟は波をかぶり、沈没の危険が迫ったのであった。弟子たちが恐れて叫ぶと、イエスは風を叱りつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言うと、風はやみ、すっかり凪になった。こうして一行は、湖の向こう岸に着いた。（マタイ8：18、22～27、マコ4：35～41、ルカ8：22～25）

A. 悪霊に対する力を示した奇跡 マタ8：28～34、マコ5：1～20、ルカ8：26～39

1. 舟を降りたイエス一行の前に、悪霊につかれた人が二人、イエスを迎えに現れた。

マタイ8：28a さて、イエスが向こう岸のガダラ人の地にお着きになると、悪霊につかれた人が二人、墓場から出て来てイエスを迎えた。

マルコ5：6 彼は遠くからイエスを見つけ、走って来て拝した。

2. 二人は狂暴で下品であった。悪霊につかれたら、人はこうなるという、見本。

マタイ 8:28b 彼らはひどく狂暴で、だれもその道を通れないほどであった。

マルコ 5:3~5 この人は墓場に住みついでいて、もはやだれも、鎖を使ってでも、彼を縛っておくことができなかった。彼はたびたび足かせと鎖でつながれたが、鎖を引きちぎり、足かせも砕いてしまい、だれにも彼を押さえることはできなかった。それで、夜も昼も墓場や山で叫び続け、石で自分のからだを傷つけていたのである。

ルカ 8:27 その町の者で、・・・彼は長い間、服を身に着けず、家に住まないで墓場に住んでいた。

ルカ 8:29b 汚れた霊はこの人を何回も捕らえていた。それで彼は鎖と足かせでつながれて監視されていたが、それらを断ち切っては、悪霊によって荒野に駆り立てられていた。

3. イエスは悪霊の名を尋ねて、「この人から出て行け」と言った。これは、悪霊を追い出すときの基本的な方法である。

マルコ 5:9 イエスが「おまえの名は何か」とお尋ねになると、彼は「私の名はレギオンです。私たちは大勢ですから」と言った。

マルコ 5:8 イエスが、「汚れた霊よ、この人から出て行け」と言われた

4. 二人が、大声で叫んだ。

マタイ 8:29 すると見よ、彼らが叫んだ。「神の子よ、私たちと何の関係があるのですか。まだその時ではないのに、もう私たちを苦しめに来たのですか。」

マルコ 5:7 大声で叫んだ。「いと高き神の子イエスよ、私とあなたに何の関係があるのですか。神によってお願いします。私を苦しめないでください。」

ルカ 8:31 悪霊どもはイエスに、底知れぬ所に行けと自分たちにお命じにならないようにと懇願した。

- 底知れぬ所：悪霊を一時的に閉じ込めておく場所。ギリシア語でアブソス、英語ではアビス。一時的とは、解き放たれるときがあるという意味。

5. 悪霊たちが豚の中に入ることを願い、イエスはそれを許した。豚の群れは崖を下って湖になだれ込み、溺れて死んだ。

マタイ 8:30~32 そこから離れたところに、多くの豚の群れが飼われていた。悪霊どもはイエスに懇願して、「私たちが追い出そうとされるのであれば、豚の群れの中に送ってください」と言った。イエスは彼らに「行け」と言われた。それで、悪霊どもは出て行って豚に入った。すると見よ。その群れ全体が崖を下って湖になだれ込み、水におぼれて死んだ。

マルコ 5:10~13 (悪霊たちは、イエスに)自分たちをこの地方から追い出さないでください、と懇願した。ところで、その山腹では、おびただしい豚の群れが飼われていた。彼らはイエスに懇願して言った。「私たちが豚の群れに入れるように、豚の中に送ってください。」イエスはそれを許された。そこで、汚れた霊どもは出て行って豚に入った。すると、二千匹のほどの豚の群れが崖を下って湖になだれ込み、その湖でおぼれて死んだ。

6. 豚を飼っていた人たちは逃げ出して町に行き、人々に知らせたので、町中の人イエスに会いに出て来た。そして、イエスにこの地方から立ち去ってほしいと願った。

マタイ 8:33~34 飼っていた人たちは逃げ出して町に行き、悪霊につかれた人たちのことなどを残らず知らせた。すると見よ、町中の人イエスに会いに出て来た。そして、イエスを見ると、その地方から立ち去ってほしいと懇願した。

マルコ 5:14~17 豚を飼っていた人たちは逃げ出して、町や里でこのことを伝えた。人々は、何が起こったのかを見ようとやって来た。そして、イエスのところに来ると、悪霊につかれていた人、すなわち、レギオンを宿していた人が服を着て、正気に返って座っているのを見て、恐ろしくなった。見ていた人たちは、悪霊につかれていた人に起こったことや豚のことを、人々に詳しく話して聞かせた。すると人々はイエスに、この地方から出て行ってほしいと懇願した。

7. 二人のうち一人がイエスにお供させてほしいと願ったが、イエスはお許しにならず、この地方にとどまって、自分の身に起きたことを証言するよう命じた。これが、後の異邦人への宣教の下準備となる。

マルコ 5:18~20 イエスが舟に乗ろうとされると、悪霊につかれていた人がお供させてほしいとイエスに願った。しかし、イエスはお許しにならず、彼にこう言われた。「あなたの家、あなたの家族のところに帰りなさい。そして、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを知らせなさい。」それで彼は立ち去り、イエスが自分にどれほど大きなことをしてくださったかを、デカポリス地方で言い広め始めた。人々はみな驚いた。

B. 病気と死に対する力を示した奇跡 マタ 9:18~26 マコ 5:21~43 ルカ 8:40~56

1. 舟に乗り、ガリラヤ湖の西側の岸、ユダヤ人地域のガリラヤ地方に戻った。(マルコ 5:21、ルカ 8:40)
2. 会堂司ヤイロがイエスのもとに来て、瀕死の娘を生かしてやってほしいと願い、イエスはヤイロの家へ向かった (マルコ 5:22~24、ルカ 8:41~42)
3. 道を行くイエスのうしろから近づいてイエスの衣の房に触れた女が、長血のわずらいから癒された (マルコ 5:25~34、ルカ 8:43~48、マタイ 9:20~22)
4. イエスが長血を癒やされた女とまだ話しているときに、会堂司の家から使いの人々が来て、娘が死んだことを告げた。イエスはその話をそばで聞き、ヤイロに「恐れなくて、ただ信じていなさい」と言われた。そして3人の弟子【ペテロ、ヤコブ、ヨハネ】だけを供の者とし、ヤイロの家へ向かった。(マルコ 5:35~37、ルカ 8:49~50)
 - マタイ 9:18~19 は、2. と 4. をまとめて記している。
5. 会堂司の家に着くと、イエスは、3人の弟子とヤイロとその妻、計5人だけと一っしょに、死んだその子のいるところに入って行き、その子をよみがえらせた (マルコ 5:38~43、ルカ 8:51~56、マタイ 9:23~26)

C. 二人の盲人の目を見えるようにした奇跡 マタイ 9:27~31

1. イエスがヤイロの家を出て進んで行くと、二人の盲人が「ダビデの子よ、私たちがあわれんでください」と叫びながらついて来た。(マタ 9:27)
2. イエスは道中のある家に入ると二人を招き入れ、彼らの信仰を確認してから、彼らの目を開いた。(マタ 9:28~31)

II. 三回目のメシア的奇跡 マタイ 9:32~34

1. 今回のメシア的奇跡は、口をきけなくする悪霊の追い出し。メシア的奇跡としては3回目。
 - (1) 1回目はツァラアト患者の癒やし、驚いた指導者層は、議会調査を開始した。
 - (2) 2回目は口をきけなくする悪霊の追い出し、議会調査の判定結果を公表した。イエスに対する公式見解がはじめて発表された。「イエスはメシアではない。イエスがこのような悪霊を追い出すことができたのは、悪霊のかしらの力による。イエスは悪霊に取りつかれた男である」という見解であった。
2. 今回3回目は、奇跡の種類は2回目と同じ。民衆はどう反応したのか？ 指導者層は、見解を変えるであろうか？

マタイ9:32~34 その人たちが出て行くと、見よ、人々はイエスのもとに、悪霊につかれて口をきけない人を連れて来た。悪霊が追い出されると、口をきけない人がもの言うようになった。群衆は驚いて、「こんなことはイスラエルで、いまだかつて起こったことがない」と言った。しかし、パリサイ人たちは、「彼は悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出しているのだ」と言った。

- (1) その人たちは： イエスは先に、二人の盲人を、道中のある家へ招き入れ、彼らの目を開いた。その二人が、目が見えるようになって喜んで家から出て行った。
- (2) 人々は： すると入れ替わりで、イエスを信じる人々が悪霊につかれて口をきけない人を、イエスのもとに連れて来た。
- (3) 悪霊が追い出されると： その家の中で、イエスは口をきけなくする悪霊を追い出したのである。
- (4) 群衆は： 家のまわりにいた群衆。悪霊につかれて口をきけなかった人が家から出て来ると、家のまわりにいた群衆は、その人が話せるようになっていることに驚いて、「これまで、このようなことは起きたことはない」と言った。その意図は、【イエスが現れるまでに誰もこのような奇跡はできなかった。ユダヤ教パリサイ派の指導者たちは、『こういうことができたら、その人はメシアだ』と教えてきたではないか?】という、指導者層に対する問いかけである。
- (5) パリサイ人たちは： 指導者層は、群衆の問いかけに耳を傾けず、拒否の姿勢を変えなかった。「彼は悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出しているのだ」
- (6) 結論： この3回目のメシア的奇跡においても、指導者層は、前回同様の見解を発表した。これにより、指導者層の姿勢が再確認された。
- (7) このあと、イエスは郷里ナザレに行き、ナザレの人々からも拒否された(マタ13:54~58、マコ6:1~6a)。
 - ナザレで拒否を受けるのは2回目であった(1度目は、宣教活動を開始した頃、ルカ4:16~31。宣教拠点をナザレではなく、カペナウムに置くことになった)。
 - 郷里での民衆からの拒否は、イエスを拒否する姿勢が指導者層から、全イスラエルの民衆レベルへと浸透していくことを予表している。いよいよ、十二弟子の派遣へとつながる。

(次回3月23日は、 III. 十二弟子の派遣 です。)